

公益財団法人 J K A

「2019年度 難病及び希少難病をかかえる人への支援活動 補助事業」

事後評価委員会（メール）議事録

1. 期間： 令和2年3月16日（月）～3月23日（月）

2. 参加者：

委員（敬称略、50音順）

田嶋恵美子（NPO法人 全国ことばを育む会 事務局長）

山田祐子（日本大学文理学部社会福祉学科 教授）

3. 議事概要

事務局より資料をメールでお送りし、その資料を基に事業に対する評価を意見書としてご提出いただいた。

《事務局から補助事業活動に関する報告》

別添

(1) 療育相談事業についての意見

田嶋：

ア 電話相談

電話相談のお知らせが、印刷媒体とブログの両者で行われていることに好感を持ちました。そのページをいつでも見られる場所に置いておく人がいるのでしょうかと想像しました。娘さん（患者）との関わり方の相談や、生活状況の拝聴、状況の拝聴という相談内容につながっていき、解決にむけての歩みや、心のケアにもつながっているという思いがしました。

また、マスコミの方からの相談もあり、ネット検索では得られない、きっと記事にぴったりの情報をとれたことだと思います。それは、読者にとっても大きなメリットが得られることだと思います。

イ 療育相談

8ブロックの広域での相談も、対面で相談できる安心感があり、相談者にとって、大事な場になっていることでしょう。

進学に関しての悩みなど、地元の相談員ならではの、連携先がすぐに伝えられでいいですね。医療・療育・教育・福祉、多岐にわたる相談内容に対応される相談員の方々に尊敬の念をいただきます。

山田：

・報告書を拝読し、利用者に還元される事業であり、実践であると思いました。

- ・電話相談も医療とピアカウンセリングとの二本立てというのも効果的で、どちらも本来に利用者が毎日生きていくうえで必要な相談の受け皿になっていると思います。
- ・相談の受け手の専門性が非常に高いということも、質の高い支援の提供ということで、この事業の意義と効果と高めていると思います。また、そのような人材を探し、選び、配置しているということが、良心的で意識が高い関係者が本事業を統括、運営していると感じ、信頼に足る機関である、と感じました。

以上のことから、本事業は貴協会の一層の価値を高め、利用者に貢献しているものであると評価いたします。

【改善すべき点】

田嶋：とくになし

山田：改善というより、発展すべき点ですが、次年度の提言のほかに、この相談事業の内容をまとめて、利用者のニーズ分析をして、何か提言を行うことや、貴協会の相談や支援の向上につなげる、ということが、あるかと思います。

(2) 次年度以降への提言

田嶋：補助なしでの「会報」発行は予算的に厳しいものがあるでしょうが、継続を願っています。

また、集団指導も独自で開催される支部があることに、未来が開けている感があります。他団体の助成を利用したキャンプ事業はできませんでしょうか。

山田：今年度事業がとても素晴らしかったので、これを貴協会の事業として今後も継続して行っていただきたいと切に思います。貴協会の一つの機能として、相談事業を位置づけていただけるとよいと思います。そのためには財源調達ということになるかと思いますが、この事業がエビデンスとなって、今後につながっていくことを期待いたします。

(3) その他

山田：他の難病や障がいの組織と連携をとっていらっしゃると思いますが、ちょうど相模原市の事件の公判がある時節柄、より一層の連携と、具体的な成果や行動も含めた、効果的連携の実践を期待いたします。

私の研究分野でいいますと、障害者虐待防止学会など、障がい専門分野別の団体との連携効果があるように感じております。設立大会に行きましたが、ご家族の願いをひしひしと感じ心が揺さぶられます。ご興味があれば。